

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19320014

研究課題名（和文） クメール、チャム碑文資料に基づくシヴァ教の研究

研究課題名（英文） Study of Śaivism based on Khmer and Cham Inscriptions

研究代表者

高島 淳 (TAKASHIMA JUN)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：40202147

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：宗教史 ヒンドゥー教 アンコール チャンパー 刻文 サンスクリット語

1. 研究計画の概要

本研究の実施計画は三つの要素からなっている。

最初のもは、(a)研究の基礎となるデータベースの整備である。

具体的には、テキストに関連するものとして、クメール文字碑文とチャム文字碑文の電子化入力を行い、テキストデータベースとして検索を可能にするとともに、KWIC インデックスの作成を行って碑文テキスト校訂者の著作権の問題に抵触しない形にして広く世界の研究者に研究の基礎となるツールを提供する。

更に、既に GICAS（「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の構築」）プロジェクトにおいて着手したチャム文字碑文の画像データベースの構築を進めるとともに、クメール碑文画像データベースの構築のための碑文画像の撮影を進める。

これに伴って、予算の許すかぎり、碑文の記述内容と遺跡遺物の対照研究のために、アンコールとチャンパーの文明の遺跡の現地調査を行う。

第二に、(b)チャム文字処理ツールの作成である。チャム文字についてはまともに使用可能なフォントすら存在しないために、研究を進めるにあたって様々な困難が伴う。これを解決するために、METAFONT を用いてチャム文字のフォントを作成する。そして作成したチャム文字フォントに基づいて TeX のチャム文字処理システムを作成する。

そして第三が、(c)シヴァ教の研究である。データベースを利用した網羅的な出現例の検討に基づいて、チャンパー及びアンコール期クメール文化におけるシヴァ教を中心と

するヒンドゥー教の様相について、最新のインドでのシヴァ教の研究の進展と対応した研究を進める。

2. 研究の進捗状況

テキストデータベース関連ではチャム碑文についての Majumdar のテキストの入力と、クメール碑文についての Inscriptions du Cambodge 全 7 巻のサンスクリット部分の入力を終え、クメール碑文のサンスクリット部分についての Majumdar のテキストの全体の入力を終えている。Inscriptions du Cambodge 全 7 巻のサンスクリット部分の KWIC インデックスを構築し、下記[その他ホームページ:URL]公開しているため、今後のクメール碑文研究にとっての基礎的ツールとなるであろう。

チャム碑文の画像データベースの試作バージョンも同じ URL から公開している。

チャム文字のフォントとそれに基づく TeX システムについても試作バージョンを同じ URL から公開している。

第 3 年目には、上記のようなデータベースに基づくシヴァ教の研究を進め、特にいわゆるデーヴァラージャ信仰について、過去の研究者のシヴァ教の無理解に基づく誤った仮説にすぎないことを十分に証明し得るような研究成果を得た。このデーヴァラージャとはインドラの別名であってアインドラ・マハーアビシェーカという王の戴冠儀礼の名前だったのである。ただその際に、ディークシャーと呼ばれるシヴァ教のイニシエーション儀礼を同時に行なって王が死後に天界に生まれ変わることを保証し、それによって王の死後の諡が決定されていたのである。これ

は従来の誤った定説を覆す大きな成果である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

上記のような理由から、データベースの構築とチャム文字処理ツールに関しては、ほぼ予定通りに達成されており、シヴァ教のあり方についての研究についてもいまだ口頭発表の段階ではあるが研究の実質については予定通り達成しつつある。これらを総合的に判断すると、全体としての達成度としては全体計画の目標の90%まで達していると言える。

4. 今後の研究の推進方策

今後は現地での確認のための最終的な実地調査を行なうとともに、細部についての研究の補足などを進める。

さらに碑文の画像データベースおよびテキストデータベースについても、横断的検索などのツールとしての洗練についても継続していく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

Minegishi, Makoto, 'Development of Electronic Dictionary for Analyzing Linguistic Data', *Proceedings of Chula-Japan Linguistics Conference 2008*, 査読有, pp.11-16, 東京外国語大学 2009.3.

Osamu AKAGI and Makoto MINEGISHI, 'Bridging ASEAN with Lexicology', *Proceedings of the CU ASEAN Conference*, 査読有, Bangkok, Thailand. (in Print)

峰岸真琴・赤木攻「『コーパスに基づく言語学』プロジェクトにおける電子辞典開発 --- タイ語を例に ---」峰岸真琴、川口裕司(編)『コーパスに基づく言語学教育研究報告3 --- フィールド調査、言語コーパス、言語情報学』, 査読無, pp.183-194, 東京外国語大学 2009.5.15.

峰岸真琴「孤立語の他動詞性と随意性：タイ語を例に」角田光枝、佐々木冠、塩谷亨編『他動性の通言語的研究』, 査読無, pp.205-216, 2007.11.26.

[学会発表] (計 4 件)

高島 淳「いわゆるdevaraja 信仰は実在したか?」「インドにおける宗教的空間の象徴性に関する学際的研究」研究会,2010.2.6,金沢大学サテライトプラザ

[その他]

ホームページ

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~tjun/khmercham/>